

福岡市長賞

「ふるさと納税から教わったこと」

福岡市立筑紫丘中学校 3年

佐藤 美海

「また、納税の書類が届いた。税金を払うために働いているみたいだ。」「消費税がある」と生活費が高くなる。」我が家での税金のイメージはあまり良くない。そんな中で唯一良いイメージのある税金は、ふるさと納税だ。「今度は何が来るのかな。」父がふるさと納税で注文する品物は私にとっての楽しみの一つだ。私は、北海道から送られてきたししゃもが大きくておいしかったことをよく覚えている。

けれど、いつも品物ばかりに目がいきなせ、税金を納めているのに品物が届くのかあまり考えたことがなかった。そこで、ふるさと納税についてインターネットで調べてみた。まず、ふるさと納税は応援したい地域への寄付金であるということがわかった。また、過疎に悩む地域を元気にする手助けになっていることもわかった。その他に驚いたことは、被災地に寄付ができるということだ。今年の夏、九州北部豪雨で朝倉市が被害をうけた。朝倉市には昨年の四倍近くのふるさと納税が納められたそうだ。

私がふるさと納税で一番いいなと思ったところは、税金の使い道を自分で決められるという点だ。たとえば、私の住んでいる福岡市だと「児童養護施設や里親などから巣立つこどもの自立と生活の向上の支援」「福岡の森づくり」「美術館や博物館、図書館などの充実」など二十以上の項目の中から自分が応援したい活動を選ぶことができる。こんなに細かく選ぶことができるのだと、とても驚いた。

また、福岡市のホームページではふるさと納税を具体的にどのように使用したのか報告がのっていた。これがあることで、税金がきちんと使われているのだと確認することもできる。

ふるさと納税について調べてみて考えたことが二つある。一つ目は、納めた税金が必要だと思えることに使われていることはとても大切だということだ。ふるさと納税のように税金の使いみちを自分で選ぶことができれば、社会のためになっているという満足感が得られ、税金を納めることへの良いイメージが増えると思う。現在集められた税金は、市や県、国の政治家たちによって決められている。その中にふるさと納税のような仕組みを取り入れられたらと思う。二つ目は、実際にどのようにして使用しているのか積極的に知らせていく必要があるということだ。「フランスでは、給与明細に税金の使い道が書いてあるのだよ。」と父が教えてくれた。それは、とても良いアイデアだと思う。何に使用するのか、わかりやすく人々の目に触れやすい形で伝えることができる。

税金を納める側と受け取った側の両者がさらに努力し、協力することでよりよい社会が作っていけるのではないかと考えた。